

## 国際化学肥料ニュース（2015年12月）

### 肥料業界の2015年12月動態

\* 12月9日、中国政府が2016年の化学肥料輸出関税を公表した。尿素、DAP、MAP、塩化加里、硫酸加里などの税率が2015年と同じで、変更がないが、りん酸、アンモニアの輸出関税が撤廃される。また、りん鉱石の輸出関税が35%から20%に引き下げる。詳細は、2016年国際化学肥料ニュースのHPにある「2016年中国化学肥料輸出関税明細」及び「2012～2016年中国化学肥料輸出関税の変化」をご参考ください。

\* アメリカの調査会社IHS社は、アメリカが窒素化学肥料生産能力を増強する動きが化学肥料の国際貿易の流れを変え、窒素化学肥料の世界的供給過剰状況を加速させるという報告を公開した。

IHS社の主席アナリスト Evgenia Apostolopoulou 氏が作成したこの報告によれば、2014年アメリカの尿素輸入量が800万トンに達し、インドを超えて世界最大の尿素輸入国になった。輸入量が国内需要量の58%を占め、その半分が中東湾岸地域からの輸入であった。カタールは最大の輸入元で、中国産尿素も輸入量の15%を占めるようになった。この状況では、輸入価格の変動が国内販売価格を大きく影響し、天候と並び、農家の生産コストを不安定にする要因の一つになった。

近年、アメリカのシェールガスの開発により、天然ガスの価格が急落した。2014年からアメリカ国内が新たにアンモニアと尿素工場を建設する動きが活発になり、2020年には尿素生産能力が1430万トンに達し、2014年の690万トンより倍増する見通しである。ほかに2020年以降に完成する窒素肥料工場の建設計画もある。一方、2020年までの窒素肥料需要の増加率が2%しかない。このため、2020年以降、アメリカの窒素肥料輸入量が急減し、中東湾岸地域、中国などの尿素輸出国が新たに輸出先を開拓しなければならない。また、窒素肥料の国際価格が次第に下落し、石炭やナフサーを原料とする高コストのメーカーが潰される可能性が高くなる。

\* 中国政府の統計によれば、2014年中国の尿素輸出量が1360万トン、世界最大の尿素輸出国である。その約38%の515万トンをインドに輸出した。アメリカへの輸出量も130万トンに達した。2015年1～10月の尿素輸出量が1050万トン、その40%（420万トン）がインド、10%（100万トン）がアメリカに輸出した。年間の尿素輸出量が1250万トンになる見通しである。

\* 中国の尿素生産能力が急増した。2015年に完成したおよび2016年に完成する予定の尿素工場が表1に示す。

表 1. 中国 2015～2016 年に完成または完成予定の新設尿素工場と生産能力

2015 年完成分				
会社名	原料	生産能力	製品種類	備考
億鼎化工	石炭	52 万トン/年	小粒尿素	
中国海洋石油華鶴	石炭	52 万トン/年	小粒尿素	5 月 14 日生産開始
滄州正元	石炭	80 万トン/年	小粒尿素	5 月 28 日生産開始
新疆心連心	石炭	50 万トン/年	小粒尿素	8 月 4 日生産開始
晋煤中能(新疆万源)	石炭	52 万トン/年	小粒尿素	
江蘇靈谷	石炭	90 万トン/年	大粒尿素	11 月 16 日生産開始
吉林長山	石炭	30 万トン/年	小粒尿素	11 月生産開始
小計		406 万トン/年		
2016 年完成予定分				
会社名	原料	生産能力	製品種類	備考
山東明水	石炭	60 万トン/年	大粒尿素	
山西天澤	石炭	60 万トン/年	大粒尿素	
山西豊喜	石炭	52 万トン/年	大粒尿素	
山東瑞星	石炭	60 万トン/年	大粒尿素	
河北正元	石炭	150 万トン/年	小・大粒	
中煤図克	石炭	115 万トン/年	大粒尿素	
小計		497 万トン/年		
合計		903 万トン/年		

2015 年に尿素生産能力新規増加量が 406 万トン、2016 年の新増加分も含めて 903 万トンの増加となる。一方、2015～2016 年に高コストの旧生産ラインの休止・廃止もあり、約 300 万トン生産能力を減らすので、600 万トンの純増加となる。

2015 年 1～10 月の中国尿素生産量が 6210.65 万トン、年間生産量が記録的な 7452.65 万トンに達し、2014 年尿素生産量 6995.28 万トンより約 457 万トン増える。これに対して、国内需要量が 5500～5600 万トン、輸出が 1250 万トンで、少なくとも 500～600 万トンが余剰となる。2016 年の尿素国際市場価格は低迷が続く見通しである。

- \* 11 月 28 日に開札したインド IPL 社の尿素入札は、応札者との交渉の結果、137 万トン  
を契約した。CFR 価格 254.44～255.44 ドル/トンで、2016 年 1 月 5 日までに納品す  
る。その内訳は、中国産約 90 万トン、中東産約 19 万トン、イラン産 13 万トン、イン  
ドネシア産 3.5～7 万トンである。
- \* 中国国営の中農 HD がベラルーシの BPC、ロシアの Uralkali の 2 社との間に 2016～  
2020 年の 5 年間加里肥料に関する戦略的協力覚書を締結した。その覚書は 2016～2020

の5年間に中農HDがBPCとUralkaliから計1000万トン塩化加里を輸入し、輸入価格は毎年決めるという内容である。

- \* 国際肥料工業会（IFA）は最新の化学肥料市場予測を発表した。2020年までの5年間に世界の化学肥料の年間需要増加率が窒素肥料1.3%、りん酸系肥料1.8%、加里肥料2.6%、平均で1.7%であると予測する。これに対して、2020年までに窒素肥料の供給増加率が需要の増加を大きく超えて、供給過剰量が2016年の1000万トンから2019年の1800万トンに増える。

窒素肥料の供給増加は、主に東南アジアのインドネシアとマレーシア、アフリカのエジプト、ナイジェリア、ガボン、タンザニア、アンゴラ、北米のアメリカに天然ガスとシェールガスを原料とする多数の建設中の新規尿素工場が2020年までに完成し、生産を開始するためである。特にアメリカは尿素生産能力が2014年の690万トンから2020年に1430万トンに急増する。

また、2015年世界の肥料需要量が1.831億トン（純成分換算、以下同）、前年度より0.1%減少する。その内訳は窒素肥料が0.1%増の1.104億トン、りん酸肥料が0.9%減の4080万トン、加里肥料が0.2%減の3190万トン。肥料需要量減の主な原因は世界経済の低迷と農産物の価格下落である。

但し、農産物の価格安定と世界経済の緩慢な回復により、2016年の肥料需要量が1.9%増の1.866億トン、窒素肥料が1.4%増の1.12億トン、りん酸肥料が2.1%増の4160万トン、加里肥料が3.3%増の3300万トンと予測する。

また、IFAは「世界肥料の短期報告書」も同時に発表した。新興国経済の回復と農産物価格の下げ止まりの影響を受け、2016年は窒素肥料とりん酸肥料の生産能力の過剰がさらに進展し、加里肥料の過剰が緩和されると予測する。2015～2016年に世界に約100件の肥料生産設備の建設が完了し、生産開始し、生産能力が約2000万トン（純養分換算）増加すると推定される。

2015～2016年約30ヶ所のアンモニア合成設備が完成し、その2/3が中国にある。2016年にはアンモニア合成能力が5%増の2.32億トン、尿素生産能力も2.27億トンに達する。但し、稼働率が下がり、生産量が1.87億トンに止まる。一方、2016年の尿素需要量が3%増の1.73億トンしかなく、過剰量が1400万トンに昇り、価格低迷が続けるだろう。アフリカからの尿素輸出が大幅増加し、西アジアや中央アジア、東ヨーロッパの尿素輸出量も増えるだろう。一方、アメリカの尿素輸入量が25%も減少する。

2016年世界のりん鉱石供給量が6%増の2.32億トン、モロッコ、ヨルダン、中国のりん鉱石採掘量がアメリカとシリアのりん鉱石減産量をカバーできる以上に増加する。2015年りん酸生産能力が5640万トン（P2O5換算、以下同）、2016年に2500万トンに微増する。2016年にりん酸生産装置の新設が無さそうである。世界のりん酸供給量が

小幅の過剰状態であり、中国が大幅に過剰し、モロッコと西アジアからのりん酸輸出力が安定的に増えるだろう。

2016年のりん酸肥料生産能力が約3%増の9700万トン、新たに増加する生産能力の95%がDAPで、モロッコが66%、中国が17%を占める。

ロシアとアメリカの加里鉱山事故や老朽化設備の廃棄により、2015年の世界加里肥料生産能力が5140万トン（K<sub>2</sub>O換算、以下同）に減少するが、2016年が約8%増の5550万トン（塩化加里9400万トン）に再び増加に転じる。一方、2015年の加里肥料生産量が4350万トン、2016年が4460万トン（塩化加里7430万トン）に達する。2015年の加里肥料需要不振の影響で、2016年の潜在的な過剰量が500万トンに止まる。

- \* ブラジルのVale社は加里肥料市場の弱気と35億ドルの投資金額を集めないことで、カナダSaskatchewan州に建設中の加里採掘と塩化加里精製工場のプロジェクトの進行を遅らせることを発表した。

Vale社のほか、イスラエルのICL社もイギリスにある加里プロジェクトの建設を遅らせることを決めた。但し、将来の加里肥料の需要増を見込んで、ドイツK+S社のカナダSaskatchewan州にあるLegacyプロジェクト（塩化加里生産能力286万トン）、ロシアEuroChem社のロシアのPalaschersk加里鉱山の第1期工事（塩化加里生産能力200万トン）が予定通りに2016年に完成する。また、BHP BillitonがカナダにあるJansenプロジェクト（塩化加里生産能力1000万トン）も予定通りに2020年に完成する。

### 大手各社の営業業績

- \* モロッコのOCP社は第3四半期の業績を公表した。1～9月の売上高が20.1%増の37.7億ドル、税引き前利益が22.4%増の14億ドルである。

OCPはJorf Lasfar-1のりん酸肥料プロジェクトが順調に進んで、2016年に完全竣工し、年間100万トン粒状MAP、DAP、重過石、化成肥料を生産する。また、Jorf Lasfar-2のりん酸肥料プロジェクトも2016年第2四半期から生産開始する予定である。

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* ヨルダンのJPMC社はインドネシアのPT Kaltim社との間にインドネシアに合弁りん酸工場の建設計画を調印した。当該りん酸工場の設計生産能力がりん酸20万トン/年、投資額3億ドル、JPMCが40%、PT Kaltimが60%の株式を持ち、2016年末に着工する。JPMCがりん鉱石をヨルダンから輸入し、PT Kaltimが生産したりん酸を全量購入し、りん酸肥料及び化成肥料の製造に供する。PT Kaltim社はインドネシア国営肥料会社PT化学肥料の子会社で、尿素300万トン/年、化成肥料35万トン/年の生産能力を有する。

- \* イスラエルの ICL 社は国際投資グループ Leviev と覚書を締結し、共同でアフリカのナミビアにりん酸肥料工場を建設することに同意した。Leviev はナミビアにりん鉱山の探鉱権と採掘権を有し、すでに探明したりん鉱石の埋蔵量が 10 億トンに達する。ICL 社はそのりん鉱石を原料としてりん酸、MAP、DAP の生産工場を建設する。製品はアメリカや南米に輸出する予定である。
- \* カナダの Agrium 社は Saskatchewan 州 Vanscoy 加里鉱山の建設を竣工したと発表した。当該鉱山の操業により、Agrium 社の塩化加里生産能力が 100 万トン増加し、300 万トン／年となる。
- \* カナダの Arianne Resources 社はケベック州政府の許可を得て、Lac a Paul りん鉱山の開発を推進すると発表した。Arianne Resources 社は 2015 年 10 月に Lac a Paul りん鉱山の環境アセスメント報告を州政府に提出した。2016 年春から建設開始し、総投資額約 12 億ドルの予定である。完成後、毎年 300 万トンりん鉱石を採掘し、25 年間採掘可能である。

## その他

- \* ドイツの K+S 社は、地元政府が新たな排水規制に対応できないため、Hessen 州にある塩化加里精製ライン 1 本を停止した。K+S 社はこの生産ラインの停止は加里肥料の需要不振に関係なく、単純に排水規制に従い、Werra 川への排水を減らすだけで、生産再開には時間がかかるとも発表した。
- \* ロシアの Uralkali 社は 11 月 24 日から今年 3 回目の株式買戻しを開始した。買戻し期間は 2016 年 3 月 31 日までである。2015 年 10 月、Uralkali 社は発行済み株式の 21.98% と転換社債 24% を約 22 億ドルで買い戻した。  
2015 年 12 月末、Uralkali 社はロンドン証券取引所から GDRs（海外株式預託証書）を完全に引き上げて、それを持っている株主の株式売却を促す行動に出た。
- \* 12 月 4 日、インド Coromandel 社は Tamil Nadu 州の洪水の影響により Chennai 県にある化成肥料工場を一時閉鎖すると発表した。Coromandel 社はインド第 2 位のりん酸肥料と化成肥料メーカーで、生産能力が 320 万トン／年である。
- \* 12 月 4 日、ノルウェーの Yara 社はアフリカ最大の肥料小売商 Greenbelt 社を完全買収し、子会社にすることを発表した。買収金額 5100 万ドル。Greenbelt 社は 2004 年ザンビアに設立し、ザンビア、マラウイ、モザンビークなど東アフリカ諸国に 3 か所の

BB 肥料工場と倉庫を有し、年間販売量が 8 万トン、売上約 500 万ドル。買収金額 5100 万ドルの中に 3200 万ドルは新たな販売ルートの開拓費用で、Greenbelt 社はその資金を使い、アフリカに肥料販売網を構築し、Yara 社の製品を販売する。

また、12 月 3 日、Yara 社はアメリカカリフォルニア州 Sacramento 市にある窒素肥料工場と付属倉庫や輸送設備をアメリカの Agrium 社から買収することを発表した。この買収により Yara 社は北カリフォルニアの肥料市場に参入することができた。

- \* 12 月 21 日、ベラルーシ大統領令第 490 号が頒布された。ベラルーシ産加里肥料の輸出関税が 2016 年 1 月 1 日から現行の 45 ユーロ／トンから 55 ユーロ／トンに引き上げるという内容である。但し、ロシア、カザフスタン、アゼルバイジャン、グルジア、タジキスタン、トルクメニスタンなど旧ソビエト加盟共和国が引き続き免税である。
- \* アメリカ CF 社はオランダ OCI 社を買収した後、本社をオランダに移転すると発表した。今年 8 月、CF 社は 80 億ドルで OCI 社の肥料世界販売網を買収すると発表し、実質の吸収合併である。買収は 2016 年に完了し、生産能力 1200 万トンを有する世界最大の肥料会社が誕生する。
- \* インドの化成肥料メーカーFACT社は2016年1月にインド政府から1.51億ドルの補助金を受け取り、自社のアンモニア合成ラインを再稼働させると発表した。2015年下期に資金不足で、原料の天然ガスを購入できないため、アンモニア合成装置を6か月以上に停止した。政府の補助金を得ることで、2016年の化成肥料生産量を75万トンと計画している。また、新たにアンモニア化化成肥料の生産ライン1本を新設し、化成肥料生産能力を30万トン以上増強することも計画している。